

英語外部試験利用自己推薦入学試験

試験科目（小論文） 問題用紙

以下の文章は、2013年4月30日から2013年5月2日にかけて日本経済新聞に掲載された『補講アベノミクスと経済理論（ニュースを読み解くやさしい経済学）』である（一部を改変している）。この文章を読み、なぜ日本銀行は通貨供給量を増やすことで、（期待）インフレ率を上昇させて、景気を良くすることができると考えているかを、「貨幣数量説」と「フィリップス曲線」という言葉を説明しつつ、簡潔に論述して下さい。

2年程度で物価上昇率を2%に引き上げようとしている黒田東彦・日銀総裁は、「金融政策の運営で市場の“期待”に働きかける」と表明しました。「物価が上がるのを期待する人がいるのか」と違和感を覚える人もいます。ここでいう「期待」は経済学の用語で、普通の言葉では「予想」に近い意味です。米国の経済学者、ロバート・ルーカスらは、人々が使える情報をすべて利用し、合理的に予想（期待）して行動する「合理的期待仮説」を唱えました。この考え方は、中央銀行の政策立案にも影響を与えています。金融政策で期待が重要なのは、人々の行動が予想に基づくからです。例えば「これから物価が上がる」と思えば、その前にモノを買おうとして、需要が増え、実際に値段が上がります。期待が実現するのです。将来に実現すると人々が予想する物価上昇率を「期待インフレ率」といいます。日銀はこの数値を上げるために、「大胆な金融政策をするから2年程度で物価上昇率は2%になります」とアピールしているのです。契約上の金利（名目金利）から期待（予想）インフレ率を差し引いたものを「実質金利」と呼びます。例えば、今の金利が年1%とします。1年後に1%物価が上がると予想している、つまり期待インフレ率が1%だとすると、実質金利は0%になります。これなら、お金を借りてもよいという気持ちが高まります。黒田総裁はインフレ期待を高めて実質金利を下げ、お金の回りをよくし、景気を回復させようとしているのです。

日銀は世の中に出回るお金の量を増やしてデフレから脱出しようとするリフレーション（通貨再膨張、略称リフレ）政策に乗り出しています。この政策の理論上の原点といえるのが貨幣数量説です。貨幣数量説を現代の経済学に応用したのは、米国の経済学者、アーヴィング・フィッシャーです。一国のお金の量と、お金が実際に取引などに使われる回数（流通速度）を掛けた金額は、物価水準と生産量を掛けた金額、つまり名目国内総生産（GDP）に等しいと主張しました。例えば、名目GDPが10兆円でお金の量（通貨供給量）が5兆円なら、流通速度は2です。フィッシャーは流通速度と生産量は別の要因で決まるので一定と仮定しました。だとすると、お金の量を増やせば物価は上がります。一方、お金の量の増減と、物価上昇率の間に直接の因果関係はないとする実証研究や、流通速度は一定ではなく、お金の量を増やしても必ずしも物価は上がらないとの反論もあります。仮にお金の量を増やして物価が上がっても、生産量が増えなければ、雇用は増えず、不況から脱出できません。早くからリフレ政策を唱えてきた岩田規久男・日銀副総裁は「お金の量を増やし続けることで人々の間にインフレ期待が広がれば、生産と雇用が増える。この状態が長くなればインフレが起き、不況からも脱却できる」と説明しています。貨幣数量説にインフレ期待の理論を組み込んだ考え方といえるでしょう。

物価は「経済の体温」に例えられることがあります。運動すると体が温まり、何もしないと冷えます。物価も似ていて、一般に経済活動が活発だと上がりやすく、不況が続くと下がりやすくなります。経済学者は物価の水準や変化から経済状態を読み取ろうとしてきました。ニュージーランド出身の経済学者、アルバン・ウィリアム・フィリップスは、失業率が下がると物価上昇率（インフレ率）が上がるという関係を見つけました。この関係を縦軸にインフレ率、横軸に失業率をとってグラフにすると右下がりの曲線が描けます。これを「フィリップス曲線」と呼びます。失業率が下がっている時期は景気がよく、企業は生産を増やしているはずですが、労働者が必要なので、失業率も下がるのです。好況期には社会全体のモノやサービスの需要は拡大しており、供給が追いつきません。賃金が上がり、モノが不足気味になり、値段が上がる、つまり物価が上昇します。失業率とインフレ率が逆向きに動くのは、こうした経済状況が影響していると考えられます。フィリップス曲線では、インフレ率を上げれば、失業率が下がることになります。大胆な金融緩和でインフレを起こすと景気がよくなり、雇用も増えるという主張の論拠の一つです。ただ、長期的にはインフレ率は失業率に影響を与えないという説や、本来は「失業率が下がるほど物価が上がる」という現象を示すので、因果関係が逆との批判もあります。